

第23回国民の医薬シンポジウム

主催：第23回国民の医薬シンポジウム実行委員会



【講演】(10:10～)

歪められた医師主導臨床研究 医療従事者はいかに読み解くか

— デイオバン問題をめぐって —

名郷直樹 武蔵国分寺公園クリニック院長、CMECジャーナルクラブ編集長

【シンポジウム】(13:00～)

HPV(「子宮頸がん予防」)ワクチン被害をめぐって

1. 接種被害の実態と診療・補償・支援のあり方

聞き取り調査結果より 後藤真紀子 弁護士

【特別講演】

急を要するHPVワクチン副反応の実態調査

西岡久寿樹 東京医科大学医学総合研究所所長

2. 接種推進運動の裏側 ～「専門家」とワクチンメーカーの怪しい関係

関口正人 弁護士

3. 子宮頸がん予防のあり方 — 「検診」と「教育・情報提供」の必要性・重要性

打出喜義 産婦人科医師

2014年

11月24日

(振替休日)

10:00～16:00

会場：平和と労働センター・全労連会館ホール

第23回国民の医薬シンポジウム・東京へのお誘い

第23回シンポジウム実行委員会

午前の部：歪められた医師主導臨床研究 医療従事者はいかに読み解くか

高血圧治療薬ディオバンの医師主導臨床研究のデータねつ造、利益相反隠ぺい事件は様々な影響を医療現場に与えました。日本の医学臨床研究の信頼性を大きく傷つけただけでなく、医療従事者と患者との信頼関係を損ない、患者の適切な治療を受ける機会を妨げ、公的な医療財政を食いものにしたりと批判されています。これはその後のプロブレスの医師主導臨床研究、アルツハイマー病研究のJ-ADNI、白血病治療薬SIGH研究での不正疑惑をみても一社員や一製薬会社の問題ではなく、医学会、製薬業界全体にかかわる問題であり、解決を要する大きな課題となっています。

今回はどのように医師主導臨床研究そのものが歪められてきたのか、この歪みを正す解決策はあるのか、日々出てくる臨床研究データそのものを医療従事者はどう読み解くのか、等について、EBM (Evidence-Based Medicine, 科学的根拠に基づく医学・医療) の第一人者である名郷直樹先生の講演をいただきます。講演と討論の中で解決策を探っていきたいと思います。

午後の部：HPV（「子宮頸がん予防」）ワクチン被害をめぐって

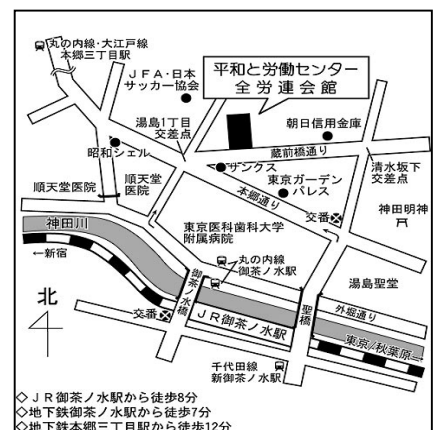
昨年の第22回シンポジウムで、私たちは、「『子宮頸がん予防』ワクチンの必要性・安全性・有効性」をテーマとして取り上げました。3時間にわたる報告・質疑・討論の結果、当初の「HPVワクチンは安全で有効なワクチンか」「そもそも、このワクチンは、子宮頸がんの予防のために必要・必須なものか」という問題設定に対しては、「YES」と答えるにはあまりにも多くの問題があること、特に「安全性」については、接種者の一部ではあっても、「厚生労働省に報告されただけでも501件の重篤な副作用があり、接種前までは健康で希望に満ちていた少女一人ひとりの人生が大きく狂わされたという重大な事実がある」ことを確認しました。その後約1年を経過しましたが、日本では、医師・医学者たちの研究により、1,112人が重い副作用被害（痙攣、歩行障害、記憶力低下等の中枢神経障害、視力や聴力の感覚器障害、広範囲の痛み等多様・多彩な症状・障害）を受けたと判定され、また、そうした症状・障害がワクチン接種により免疫異常が起き、脳が障害を受けた可能性があることが指摘されました。今回のシンポジウムでは、そうした医学的研究に中心的な役割を果たされている西岡久寿樹先生に特別講演をお願いしました。そのご講演に先立ち、「全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会」が弁護士等の協力を得て本年3～5月に12人を対象に実施した被害実態調査結果が報告されます。そして、被害多発の社会的要因としての「ワクチン村」の実態について弁護士が、また今後の子宮頸がん予防のあり方について産婦人科医師が報告し、質疑・討論が行われます。この問題は、ワクチンが現に使用されている世界各国に及ぶ国際問題でもあります。皆様のご参加をお待ちしております。

【参加費】1,000円（医療関係者以外は無料）

※シンポジウム内容を特集する日本医療総合研究所発行『月刊国民医療』（2015年2月発行予定）購入を希望される方は、送付先を明記の上、当日500円を添えてお申し込みください。後日送付します。

※お弁当（昼食）を注文される方は、事前申込の上当日別途1,000円をお支払いください（お弁当の申込期限は11月17日必着。それ以後はお受けできません）。

【申込・問い合わせ】〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5 公益財団法人日本医療総合研究所（中村）まで（Tel: 03-3876-6101 Fax: 03-3876-6103）。申込はFAXでお願いします。当日参加も可能です。



シンポジウム事前申込書 FAX: 03-3876-6103

氏名			□男 □女	職種		
連絡先	住所 〒 -		勤務先の場合は職場名も忘れずに記載して下さい			
報告集送付先	TEL		弁当	□ 注文する 11月17日必着	『月刊国民医療』	□ 希望する